

すめます。自治体との協力関係を強めながら給食やヘルパー事業へ分野を広げます。

④働きたい高齢者も積極的に組織し、その人たちを中心にしながら、自治体などへの仕事確保の運動もすすめます。

⑤準備会は加入した高齢者の要求にもとづき、事業計画をつくっていきます。

⑥準備の状況を見て、地域ごとの高齢者協同組合を発足させ、法人認可が可能な組織に成長した段階で、県単位で法人認可を受けます。

全国準備会は、各地域での取り組みの情報の収集や提供を行いながら、各地域の高齢者協同組合づくりを援助し、第9回総代会にあわせて結成総会をおこないます。

事業と運動を統一した本格的な高齢者自身が主体となった組織がまだない中で、未知の部分も多く、一人一人の高齢者自身の要求や智恵や工夫のなかで実践をつみかさねながらつくっていくものです。

厚生省のある幹部は、高齢者協同組合構想に対して絶賛し、「みなさんは、事業体として全国で多様な仕事をしいるという土台があるので、成功すると期待している」と表明しています。

高齢化社会に向かって、高齢者自らの人生を自分たちの力で豊かなものに創造しようという大運動に、力をあわせて挑戦しましょう。

<特集 労働者協同組合運動の新段階>

映画『病院で死ぬということ』

自主上映運動が示す「協同」の可能性

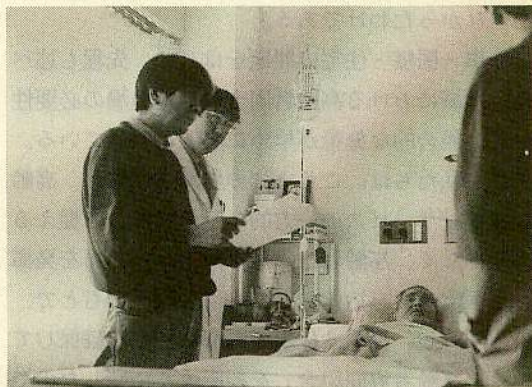
鈴木 剛（東京都／センター事業団・映画事務局）

「病院で死ぬということ」を

取り巻く現状

映画産業の衰退は著しいものになっている。かつて高度経済成長期に7500の映画館と年間11億人を越える入場観客数を誇った花形産業も、現在は映画館1700・観客数1億2千万にまで激減している。作品自体の量質も低下が甚だしいと言われている。（毎日新聞4/29）

その原因は様々に指摘されているが、最もよく言われることは、テレビ・ビデオなどのメディアが急激に増大したことであろう。これは1970年代以降の構造危機を受け、資本側の商品戦略が高度消費社会の創出を第一義としたことに無論規定される。その一例として、家電業界は「一家一台」さらには「一人一台」と、誰もが所有するまでにAV製品を行き渡らせたわけである。他人との繋がりからおおよそ無縁なワンルームマンションで、



お手軽にビデオソフトを楽しむ若者たちの足が映画館から遠のいたのも無理もない話である。

いや、今や高齢者も地域における協同性の喪失とともにテレビ漬けの状態に置かれている（ある調査によると、高齢者が一日にテレビを観る時間は平均して6時間を超えているという！）このことが高齢者の心身両面に悪影響を与え、いわゆる「ねたきり老人」の増加の原因になっているとい

う医学的な報告すらなされている。

たかが映画というなかれ。このような映画産業の凋落現象から、今日の日本における福祉政策の後退～孤独に「病院で死ぬということ」が当たり前になっている現状を垣間見ることができるのである。

映画『病院で死ぬということ!』自主上映運動は何を目指しているのか?

日本労働者協同組合連合会センター事業団は、このような現状の中で、いわば冒険主義ともいえる映画の企画・製作、さらには自主上映運動を展開することを全くの素人の立場ながら決めた。その目的は、まさにこのような現状自体を変えていくことにあった。

現役の外科医である山崎章郎氏が書いた原作の「病院で死ぬということ」(主婦の友社刊)は、末期医療の現場における問題をリアルに描き、衝撃を与えたベストセラーである。おりしも私たちセンター事業団では、60歳をこえる高齢の組合員が半数を占めるという現状があり、ここで描かれている事実を大変に重い課題として受け止めざるを得なかったわけである。

仕事・医療・住宅の問題をはじめ、先程も述べた、地域における高齢者同士の交流の場の必要性など、総合的な施策が早急に必要とされている。それを私たちは、これまでの発想を逆転し、高齢者を福祉サービスの一方的な受給者として捉えるのではなく、高齢者自身が主体となって力を発揮し、医療者・自治体などとの協力関係のもとで、自ら出資し、協同で仕事・医療・住宅を確保していく「高齢者協同組合」を提唱するに至ったのである。これまでに高齢者が協同して就労の場を確保し働き、かつヘルパー・老人給食・介護用品の販売等の事業展開も行う中で、私たちは高齢者協同組合の構想が高齢化社会に対応する抜本的な政策として位置づくことを確信したのである。

この映画『病院で死ぬということ』を、かつてない広範な領域の人々と繋がって上映していくことは、高齢者はもとより、あらゆる世代の地域性・

連帯感を失った現代人が協同の力を獲得し、社会を変革していく礎を築くことになるであろう。

「100万人の感動」に挑む自主上映運動

監督はCM界の最高峰に位置する気鋭の映像作家・市川準氏で、その映像美は既にマスコミ・映画評論家から絶賛を浴びている。作品の内容に関する評価は、ぜひ実際にご覧になっていただきたい。(一見ぶっきらぼうに見えて、実に入念に作られている。段々深い感動におおわれ、私は三度目が一番感動した——映画評論家 白井佳夫氏談)ここで報告したいのは、文化運動・社会運動としての『病院で死ぬということ』自主上映運動についてである。

この映画は撮影段階から病院の清掃現場で働く多くの私たちの仲間が参加している。病院内での清掃員の役として毎日の丁寧な仕事ぶりを発揮し市川監督を唸らせた組合員は「70歳にもなって、映画に出られるなんて……」と感激した。この自分たちの映画を広げることを自分たちの労働条件や地域社会を変えていくことと結びつけて運動が始まったのである。

現在、春から夏にかけての試写会と大都市での劇場ロードショーをバネにして、全国各地域で上映実行委員会が結成されている。病院や看護協会などの医療関係者・労働者協同組合を始めとした消費生協や農協などの協同組合・自治体の福祉関連課や社会福祉協議会などの行政・研究者や学生などの大学関係者・労働組合・生命保険会社などの民間企業・様々な市民団体・映画を守ろうとしている地域の小劇場支配人・「ビハーラの会」や「生と死を考える会」などの宗教者 e t c……各地域ごとの課題を軸にして実に多様な実行委員会が結成されている。その数は、10/31現在で、約200ヶ所、観客人数は20万人を予定している。今後は、採算を取ることが難しいといわれている映画興行の面においても、労働者協同組合が高く掲げる「絶対に赤字を出さない全組合員経営」の観点から成功させ、さらに「100万人の感動」を目指して、画期的な地平を切り拓いていきたいと考

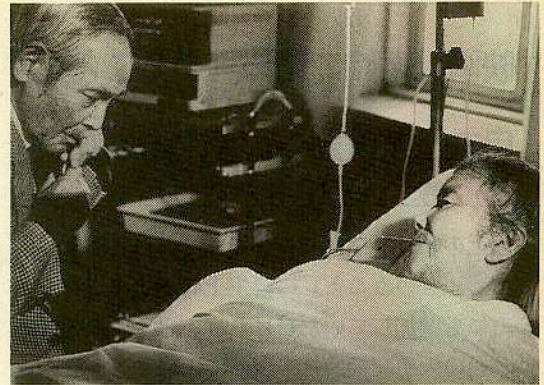
えている。みなさんも自主上映運動に参加していただけるように、さらに2、3の実際の取り組みを報告したい。

地域社会を協同の力で

活性化する自主上映運動

センター事業団では、全国の各事業所で全組合員が徹底して行った討議に基づき作成された事業計画の中で、事業拡大・地域における労働者協同組合運動の展開などと密接に関連させる形でこの映画の上映運動を位置づけてきた。例えば、東京などの幾つかの事業所は自主上映運動を自治体に協力要請する行動・提案から、継続的な「高齢者協同組合」に関する懇談会を行っていくという画期的な確約を得た。また自治体に対してだけではなく、映画の内容と関連が深い医療施設の清掃や医療廃棄物の処理、あるいは協同組合間の提携業務などの事業拡大も、自主上映の協力を要請する中で進めてきたのである。しかも、これは決して映画を専門とする役割をもった組合員のみが行動したのではないのである。世に言う「3K労働、に従事する私たちの仲間が日頃から目指している「よい仕事」を語る中で進められようとしている運動なのである。従って私たちは、先述した今日における消費資本主義社会が生み出す人間の孤立化を乗り越えて仲間との連帯を深める文化運動をさらには現場労働自体の価値を高め、地域社会における雇用を創出し、よき地域をつくりあげていく社会経済運動とも融合させて取り組んでいるわけである。

そしてこの運動はセンター事業団以外の団体・個人にも大きく広がっている。例えば映画の上映実行委員会の結成から発展して、地域社会の医療福祉問題を考え政策提言をしていこうという市民団体の結成に繋がっているケースが幾つも生まれている。具体的には、福島県郡山市で原作本「病院で死ぬということ」の著者である山崎章郎氏の御両親が中心となって進められている自主上映運動の例が素晴らしい。これは当初ごく少数の人々が映画上映のためにつくった実行委員会であった



が、市内県内の医療福祉団体・行政・市民団体・マスコミの協力を得ながら、前売り段階で、ほぼ満席に近い1200枚のチケットを捌ききっている。さらに同実行委員会は、映画上映だけではなく、10/30に市内で「ターミナルケアを考える市民のシンポジウム」を開催している。ここでは市内の医師・看護婦・牧師・市民運動の活動家・末期癌患者の家族がパネラーとして招かれ、地域社会における福祉行政の貧困さが具体的に指摘された。山崎医師の父である芳郎さん（元小学校校長）は「昨今のゼネコン汚職にみられるような公共性なき公共事業に替わり、全国民運動として当時者の立場に立った公共政策を作り出していくべきではないか」と提起された。参加者は映画上映終了後に実行委員会を福島県におけるこの運動の主体となる組織へ発展させることも堂々と確認した。

この様に映画『病院で死ぬということ』の自主上映運動は、地域社会における様々な問題を「上からの改革、と全く質の異なる、様々な領域の人々が協同の力でもって変革していこう」という大変にユニークな運動である。労働者協同組合は、これらの自発的にいきいきと生まれている各団体と地域社会に貢献しながら人々の生活を支える事業の展開を通して日常的に手をたづさえあい、協同社会の実現に向けて一步一步前進していきたいと考えている。

**映画『病院で死ぬということ』
自主上映運動への協力をお願い**

以上のような広がりとお可能性を持った映画『病院で死ぬということ』の自主上映運動にぜひ皆さん方にも参加していただければと思う。この映画は一般の大手配給会社を通して上映される映画と異なって、様々な時間・場所・規模・企画で上映が可能である。フィルム上映料は上映形態によって2通りの設定の仕方がある。

①実行委員会型

外部に向けてTV・新聞・雑誌・チラシなどを用いて宣伝を行う上映形式。

[会場入場人数×¥750]

②団体上映型

職場・組合・学園・研究会などの内部のみでの行う上映形式。

[会場定員数×¥750×0.75]

●なお上映のために必要な経費として次のものが考えられる。

▷映写機=16mmと35mmの二種類がある。レンタルすると、16mm=¥25000/35mm=¥50000。フィルムは、複数の本数があるので、1本に巻き上げられないときは映写機が2台必要である。業者に頼めば映写機が1台で済む。

▷映写技師への謝礼=¥30000程度

▷会場費

▷フィルムの郵送費

※例えば、職場内の研修会で定員100名の上映会をしたいが、経験がなく、最も経費がかかる場合は……

フィルム上映料

100×750×0.75=¥56250

映写機レンタル料(16mmの場合)

25000×2 = ¥50000

技師への謝礼 = ¥30000

計 ¥136350 となる

但し、公共の施設で映写機を無料で貸す場合も多く、技師も経験のある知人に頼むなどして、かなり安く上映することが可能である。

93.11月 『病院で死ぬということ』 上映スケジュール表

| 日曜 | 主催(開催名) | 会場 | 時間 |
|-------|---------------|----------------|-------------------|
| 25(木) | 東京都看護協会 看護研究会 | 朝日生命ホール | 15:10 |
| | 香川 センター事業所 | 丸亀市総合会館 | 13:30、16:00、18:30 |
| | 痴呆性高齢者家族の家研修会 | 王子動物園ホール | 13:25 |
| 26(金) | 熊本大学有志 | 熊本電気館 | 2回上映 |
| | 三郷事業所 | 三郷市文化会館 | 18:30 |
| | 神奈川 横浜 | 岩間市民プラザ | 18:30 |
| | 長野 松本 | 松本文化会館 中ホール | 18:30 |
| 27(土) | センター川崎 | 新百合21生涯学習振興事業団 | 13:00 |
| | こぼとの家(仮) | 宮前文化センター | |
| | 島根 出雲地区実行委員会 | 出雲市体育館 集会室 | 14:00、18:30 |

| | | | |
|-------|----------------------------|------------------|---------------------------|
| 27(土) | 東京ビハラーチャリティーパーティー 千葉 成田 | 築地本願寺 印旛教育会館 | 17:00 1日2回 10:00、13:00 |
| 28(日) | 香川 高松 センター香川 北海道 稚内 | ミュージズホール 会場未定 | 11:00、13:30、16:00 |
| 29(月) | 広島県上映会 博愛病院栄養管理 北海道新篠津 | 県市民会館 会場未定 | 13:00、15:30、18:30 |
| 30(火) | 広島県上映会 博愛病院栄養管理 | 県市民会館 | 13:00、15:30、18:30 |

'93.12月

| 日曜 | 主催 (開催名) | 会場 | 時間 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 2(木) | 札幌 鉄道病院 | | |
| 3(金) | 神奈川 藤沢 10/21より① 福岡 センター九州上映 世田谷高齢社会シンポジウム | 藤沢市民会館 明治生命ホール 玉川区民会館 | 1日4回 10:30～ 16:00 |
| 4(土) | 福岡 センター九州上映 東京 ふれあいランドこたいら センター富山事務所(仮) 和歌山県教職員組合 名古屋 仮 看護 香川 高松 平和ドルビー (2/4迄) 名古屋 看護学校 | パピヨン24ガスホール 小平市福祉会館 富山市豊田町1-1-8 富山病院 田辺市朝日ヶ丘22-19 教育会館 | 1日4回 10:30～ 13:00 14:00、18:30 |
| 5(日) | 神奈川厚木クオリティーライフ | 厚木文化会館ホール | 18:30 |
| 6(月) | 福岡 センター九州 | 明治生命ホール | 1日4回 10:30～ |
| 7(火) | 福岡 センター九州 | 明治生命ホール | 1日4回 10:30～ |
| 9(木) | 横浜南部ブロック助け合いワーカー | 横浜市港南公会堂 | 10:00～ |
| 10(金) | 神奈川 横浜 (決) | サンハート旭区民文化センター | 13:30、15:30、18:30 |
| 11(土) | 愛知 一宮実行委員会 | 一宮勤労福祉会館大ホール | 14:30、18:30 |
| 12(日) | 倉敷・岡山 | 文学館 | 11:00、15:00、17:00 |
| 18(土) | 神奈川 センター横浜 島根 大田市 京都 福祉生協準備会 京都 高齢者社会を考える集い | 横浜女性フォーラム 大田ふれあいホール 呉竹文化センター 京都舞鶴勤労者福祉会館多目的ホール | 13:30、15:30、18:30 1日2回 14:30 |
| 22(木) | 札幌看護研究 手稲ルカ病院 | 手稲ルカ病院 会議室 | 12:30 |

お問い合わせは

日本労働者協同組合連合会センター事業団内

映画「病院で死ぬということ」製作普及委員会 (担当: 鈴木) まで

TEL03-3987-5919 FAX03-3987-1807